角突き：ルール、役割、出場者

角突きは、文字通り、「角を突く」ことで、2 頭の牛が押し合いその強さと持久力を示す競技です。審判が判定を下し、牛は、その力強さと粘り強さをもとに評価され、その後の試合相手が決められます。試合は、5 月から 11 月にかけて小千谷闘牛場で開催されます。

ルール
勢子が 2 頭の闘牛を競技場へと引いてきます。競技場の周りを時計回りにまわると、牛は角をからめて対決が始まり、互いに押し合います。審判が試合終了を宣言すると、勢子が割って入って牛を引き離します。通常は、一方の牛が相手を負かす寸前に、判定が下されます。試合は 5 分ほど続くのがふつうで、牛が怪我をしないよう厳しい対策が取られます。

勢子
試合開始の際、勢子は牛の尻を叩いて前進を促し、「ヨシター！」(地元の方言で「さあ！」といった意味）と大声で叫んで闘いを促します。牛が過度に攻撃的になりはじめると、試合終了の合図が出され、勢子には牛を引き離すという重要な仕事があります。勢子の役割には、スピード、直感、そして専門的な技術（縄に関する技術や、怒る牛を追いかけつつ衝突を避ける際の俊敏さなど）が求められます。

牛
岩手県の南部牛（短角牛）が、その大きさと、小千谷の寒い冬に対する忍耐力から好まれます。この大きな動物は、3 歳頃になると闘牛としてのデビューを果たし、体重は通常 700～1,100 キロになります。牛によっては、競技場へ入る際に「ドー声」と呼ばれる喉からの雄たけびをあげ、闘う用意ができていることを知らせます。

試合
小千谷で月に一度開催される競技中は、1 日に約 15～20 試合が行われます。出場する牛は、試合の数日前に発表されます。その日最後の 3 試合は、終い三番（最後の大きな 3 試合）と呼ばれ、それ以前の競技から最も強い牛が出場します。11 月に行われるその年最後の競技で、優勝が発表されます。この称号は、シーズン中、最も勇敢で忍耐力があったと考えられる牛に与えられます。

牛持ち（牛の所有者）
個人、一家、友人の団体、企業などが、闘牛を所有しています。牛の所有には多くの時間的投資が必要です。餌やり、ブラッシング、運動、清掃などのすべてを毎日のように行うのが所有者の仕事です。近代以前には、田畑の耕作や荷物の運搬におけるその役割から牛は家族の一員とみなされ、多くの場合、所有者と同じ屋根の下に暮らしていました。現在では、小千谷市東山地区の角突き闘牛場近くにある共同牛舎で飼育されるのが一般的です。

闘牛場
闘牛場は、山がちな小千谷市東山地区にあります。屋根のない席と屋根のある席が用意されています。闘牛場の外では、出店で軽食やお酒、また角突きに関するグッズが販売されています。会場付近には、2004 年の新潟県中越地震の際に二つに裂けた牛型の大きな岩があります。現在、この岩は、復興の象徴となり、地震で亡くなった方々の記念碑となっています。

競技は、5 月から 11 月にかけて、月に一度開催されます。料金や空席状況については事前にご確認ください。英語による解説もあります。